



● 安藤 理恵



「キャッサバの収穫」

8月にはキャッサバの収穫期、引き抜くとサツマイモのような形状のマンディオカ(キャッサバ)が現れる。皮は厚さ5ミリで剥がれやすくなっており、隙間にナイフを入れれば簡単に皮がむける。中は白く、味はジャガイモのよう。



「主食は肉!？」

ビュッフェスタイルで前菜・サラダ・パスタ・お寿司まであり、おいしい肉は様々な部位を食べ放題。お酒も飲んで、デザートビュッフェを堪能し、夕食でひとり1000円程度。こんなに安くていいのでしょうか。

○ 市江 文奈



「この笑顔を待っていた！」

イグアス日本語学校高等部の生徒。一見クールな印象に、仲良くなれるか不安で急ぎ授業を作り変えた私。でも、どんな質問も喜んで答えてくれたし、沢山の笑顔くれた。素直で優しい子どもに元気ももらえた。



「Mi favirito ♡」

色鮮やかで繊細な「ニヤンドゥティ」。人の手によって糸を1針ずつ縫い合わせて作るという、なんとも時間と労力のかかる作品。こんな素敵な作品を作るパラグアイの職人さんを心から尊敬する。

● 児玉 やこ



「“ンベジュ”をひっくり返すママ」

“ンベジュ”はパラグアイの冬の料理。マンディオカ(キャッサバ)とチーズと卵を混ぜ成型しながら焼きます。ママは料理上手で、ひっくり返すのもお手の物。おいしいパラグアイ料理をたくさん作ってくれました。



「うまくできたよ！」

職業訓練校、建築科の生徒たち。慣れない折り紙にも関わらず、慎重に丁寧に折り進めて、すてきな折り紙の箱ができました。交流と一緒に楽しんでくれる素直ですてきな生徒たちでした。



● 笹ヶ瀬 菜生



「テレレの時間はかけがえのない時間」

パラグアイで何度も目にしたテレレの時間。何か話し込むわけではないけれど、大切な人と時間を共有することで心がほっと温かくなる。ちょっとしたことを話せて笑い合える、そんな時間の尊さを、忘れずにいたい。



「自然との共生って？」

シシリアさんの夢は、環境保全だ。自然とつながり、自然を大切に扱いながら生活する、それが自然と共生すること。真つすぐに前を見てそう語ってくれたシシリアさんの言葉が心に響いた。

○ 清水 歩美



「地球の裏側にできた家族」

初めてのホームステイ。言葉はあまり通じなかったけど身振りや表情で伝わるのがたくさんあった。私たちの言葉に一生懸命耳を傾け、温かく受け入れてくれたパラグアイの家族のみんな。別れの時には自然と涙が出た。



「子どものパワーは世界共通！」

時差ほけて疲れていても、子ども達と触れ合うことで自然と湧いてくる力があつた。どこへ行っても子どもにはすごい力があることを実感した。そして「いつか海外で授業をしてみたい」という夢が叶った瞬間でもあつた。

● 田原 浩美



「地球の裏側にいる親友と」

この研修で、同僚であり親友である青年海外協力隊の渡辺さんに会えたことが、私にとって大きなことだった。彼女が一人で踏ん張っている場所を、自分の目で見て肌で感じられたことで、私の心が強く揺さぶられた。



「子どもの無邪気さは世界共通」

メルセデス・ミルトス小学校で、「かもつれっしゃ」をして交流をした。言葉が通じなくても、楽しいことがよくわかる子ども達はとても無邪気に遊んでいて、日本の子どもと何も変わらなかつた。



● 村田 義剛



「んっ!? TOKYO!?!」

パラグアイでやたらと見ることが多かったこの看板。実は家電製品を取り扱っている中国の会社。日本製品への信頼をこんなところで感じるとは思ってもよらなかった。すごいぞニッポン!!



「よし、小学校でサッカー交流だ!!」

休み時間は元気の良い子どもたちとサッカー!さすがパラグアイ!子どもたちのレベルが高い!そしてこの写真の直後、私は足を捻挫しました。痛かった〜。(笑)

○ 油浅 重里



「幸せの在り方」

ホームステイをさせて頂いたイリさん一家との1枚。人とのつながりを大切にすパラグアイの人々と接して、大切な人と共に過ごす時間の尊さについて考えさせられた。



「貧困地区の実態」

都市部のビル群と隣り合わせで存在する最貧困カテウラ地区。簡単には解決しない問題がそこにあることを実感した。私たちはどう向き合い、行動すればいいだろうか。



集合写真

㊦：イグアス湖流域総合管理体制強化プロジェクト小農家訪問にて（昼食）



㊦：白沢商工株式会社にて（白沢社長、JICA 東北のみなさんと一緒に）



㊦：最終日、空港にて（お世話になった通訳の菊池エリカさん、運転手のグスタボさんと）